(別紙1)

情報提供の	情報提供の			(参考:過去に登録のあった農薬情報)		
あった資材	あった対象	使用方法・目的	法第2条第1項の規定に基づく登録が必要である	農薬の有	4	対象病害虫、農
名	│病害虫/農 │作物		理由	効成分名、 種類等	失効年	 作物等
ナフサク		果実の肥大又は徒	慢性毒性の評価がなされていないことから安全性	<u>作扱</u> せ	昭和51	リンゴ、ナシ等
(- ナフ	物全般	長防止のため散	が確認されていない。農作物への薬害のおそれ。	- ナフタリン酢	年	の果樹、茶、桑
タリン酢		布、根灌水		酸)(植		バラ等に対する
酸)				物 成 長 調 整剤)		落下防止又は発 根促進に使用
塩化ベンザ	野菜、花卉、	水耕栽培で消毒の	医療用消毒剤であり、感作(明らかな免疫反応)	塩化ベン	昭和54	イチゴうどんこ
ルコニウム	観葉植物等	ため水に溶かし、	や非特異的生体作用を引き起こす可能性を抑制す	ザルコニ	年	病及びみかんか
	の病菌	又は温室内に吊下	る必要がある。登録されていた当時は、高温時の	ウム(殺		いよう病の防除
		げ	薬害の注意や、広範囲に使用する場合の魚毒性に 注意することとされていた。	菌剤)		に使用
クレゾール	ハウス作物	 忌避のためビニー	注思することとはでいた。 急性経口毒性がラットで 121mg/kg と高い。皮膚	クレゾー	昭和46	畑地の野そ及び
(ナフタリ		ルに入れてハウス	や目に触れるとひどいやけどを起こすほか、蒸気	ル(BHC、	年	もぐらの侵入防
ンと一緒に		に吊す	吸入により使用者の安全性に問題。散布された場	ナフタリンとの		止、忌避に使用
使用)			合農作物の安全性も懸念。	混合剤)		
クレオソー	メロン等の	忌避のため空き缶	<i></i>	<u>(忌避剤)</u> クレオソ	平成4	林地のエゾウサ
ト(灯油と		に入れハウスの両	濃度の場合目や呼吸器系の粘膜を刺激する。	- ト油(忌	年 2	ギ及びエゾヤチ
一緒に使	等	側に設置		避剤)		ネズミの忌避に
用)				-	Π 7 1 4 C	使用
					昭和46 年	│いのししの忌避│ │に使用
				クレオソート(2-	昭和27	野と、猪、野そ
				ナフトールとの	年	熊及びモグラの
				混合剤)		忌避に使用
たばこくず	野菜のアブ	殺虫のため散布	 たばこに含まれるニコチンは毒物であり、人畜に	(忌避剤) たばこ粉	昭和48	ー 稲、果樹及び野
・たばこ抽		がアプクランリン・ログリン	対する急性毒性及び魚毒性が強い。登録されてい	(殺虫剤)	年	補、未固及びず 菜のニカメイチュウ、アブ
出物			た当時は、人畜やカイコに対する毒性の強さに注	(),,,,	•	ラムシ、ウンカ等の殺虫
			意することとされていた。			に使用

情報提供の あった資材 名	情報提供の あった対象 病害虫/農 作物	使用方法・目的	法第2条第1項の規定に基づく登録が必要である 理由	<u>(参考:過2</u> 農薬の有 効成分名、 種類等	失効年	<u>Dあった農薬情報)</u> 対象病害虫、農 作物等
ナフタリン	稲のかない かかい がない がいかい がいま がいま がいま がいま がいま がいま がいま がいま がいま がい	害虫の忌避のため 吊下げ	マウスを用いた変異原性試験で陽性。長時間皮膚に接触すると薬傷を起こす。粉じんを吸入すると頭痛や吐き気を起こす。	ナフタリン (BHC、ク レゾールとの 混合剤) (忌避剤)	昭和46 年 	畑地の野そ及び もぐらの侵入防 止、忌避に使用
ホウ酸	不明	実態は確認されていないが使用される可能性が指摘	大量に内服すると中枢神経に影響を及ぼす。致死量は大人 20g、幼児 5g。	ホウ酸 (殺虫剤)	昭和32 年	コクゾウムシ、バクガ、 類のゾウムシその他 雑穀類の食害の 殺虫に使用
ホルムアル デヒド	桑、カイコ、 カイコの飼 育室	カイコの病気の防止のため、桑や蚕体、飼育室に散布(この使用方法ではよい)	劇物。急性経口毒性がラットで 100mg/kg と高い。 変異原性があるとの報告あり。蒸気が粘膜を刺激 し、結膜炎、気管支炎などを起こす。	ホルムア ルデヒド (殺菌剤)	平成2年	たばこ黒枯病、 桑胴枯病、稲い もちびばれいし 病疫病等の防除 に使用
パラホルム アルデヒド	桑、カイコ、 カイコの飼 育室	カイコの病気の防止のため、桑や蚕体、飼育室に散布 (この使用方法では農薬ではない)	ホルムアルデヒドの重合体で、高濃度のホルムアルデヒドとして用いられる。毒性情報はホルムアルデヒドと同様。	パラホル ムアルデ ヒド (殺菌剤)	平成2年	たばこの黒色根 腐病の防除に使 用
石油(灯油)	草	除草のため雑草に スポット散布	微生物突然変異試験で陽性。登録されていた当時は、長時間皮膚に付着すると軽い湿疹を起こすことがあるとされていた。	石油 (除草剤)	昭和57 年	ニンジン、ミツバのメヒ シバ、ハコベ、アカザ 等、林地のクズの 除草に使用
消石灰	ネギの病害	殺菌のため散布	経口摂取により中程度の毒性。ラットを用いた変 異原性試験で陽性。	消石灰 (殺菌剤)	昭和40年	りんごのモニリア病 の防除に使用